

GI・第49回高松宮記念特別競走
9月25、7日・住之江ボート

頂点を衝け!!

9月2日から伝統のGI「第49回高松宮記念特別競走」が住之江ボートを舞台に開催される。全国屈指の強豪が集結するが、今回は東西の刺客として若きGI覇者・永井彪也、昨年の住之江でSG初Vを達成した篠崎仁志をピックアップ。迎え撃つ地元勢では次世代のエース・上條暢嵩に注目した。1回目は上條を取り上げる。

充実一途!!地元で爪あとを残す

①上條暢嵩

「爪あとを残したい」
上條暢嵩が自身2回目のGIタイトル奪取に挑む。

今年はこちらまで優勝が4回。近況は7月のびわこデイリー杯で圧勝V。続く鳴門一般戦でも混戦を制した。「本当にたまたまですよ」と謙遜するが、2節連続優勝を成し遂げ波に乗る。勝率も上がり、SG・ボートレースダイビー(10月26、31日・平和島)の出場権も獲得するなど充実ぶりが際立っている。

地元の住之江では、正月の全大阪王将戦で優出2着。4月のルーキーシリーズ第8戦では優勝と、結果を残し

ている。ただGI戦に限ると、3月の64周年(太閤賞)で予選敗退、続く4月の65周年(太閤賞)も準優6着という悔しい結果だ。

迎える高松宮記念は18年10月の第46回大会で、デビュー初のGI優出(4着)を決めた思い出のレース。「(住之江は)結構走らせてもらっているの、しっかりと頑張りたい」と全力で立ち向かっていく姿勢だ。

19年4月、GI初Vの歓喜に沸いた下関ダイヤモンドカップからはや2年。地元でGI制覇のチャンスは誰にも渡さない。(保田叔久)



地元水面でGI
タイトルを狙う
上條暢嵩